

【報告 1】

第 3 次総合交通戦略および第 3 次公共交通政策ビジョンの 進捗状況について（説明資料）

第 3 次総合交通戦略および第 3 次公共交通政策ビジョンについては、目標指標を定め、計画策定時の現況値と比較することで計画の進捗状況を管理しております。今回、計画の中間年度でもあることから、報告資料 1 のとおり令和 4 年度末の現況値を整理しましたので報告します。

現況値のうち、赤で表示している指標値は策定時の現況値より改善している項目であり、青で表示している項目は策定時よりも悪化している項目となっています。

新型コロナウイルスの影響の影響により、①④⑥⑦⑨の項目については現況値を大きく下回っている状況です。また、⑬の拠点間所用時間帯については、若干悪化となっておりますが、細かいデータを見てみると、小型車両による所要時間は改善されているものの、平均速度が遅い大型車両の割合が増えており、全体として若干悪化となっているものです。

第 3 次秋田市総合交通戦略および第 3 次秋田市公共交通政策ビジョンにおいては、進捗状況を評価し、必要に応じて計画の見直しを行うと記載しておりますが、計画に位置づけた取組については、現在進行中であることに加え、新型コロナウイルスの影響については、現時点で見直しを実施するためのデータ等根拠に乏しいことから、現時点では、これまでの取組を継続していくことで、総合交通戦略の基本的な方針である、誰もが自由に最適な移動手段を選択できる交通体系の実現を目指してまいります。

第3次秋田市総合交通戦略成果目標指標（進捗状況）

赤文字：現況値（R1）より改善
青文字：現況値（R1）より悪化

番号	目標	施策パッケージ	該当指標名	第3次戦略およびビジョン進捗状況							目標値【R7】	備考	
				R1【現況値】	R2【策定年】	R3【1年目】	R4【2年目】 暫定値	R5【3年目】	R6【4年目】	R7【5年目】			
①	目標Ⅰ 誰もが安全・安心かつ快適に利用でき、にぎわいの創出に寄与する歩行者・自転車交通環境の実現	誰もが安全・安心かつ快適に通行できる歩行者・自転車空間の整備	中心市街地の歩行者・自転車通行量(人)	30,664人	25,140人	20,539人	22,846人				30,664人	コロナ禍の影響により大きく落ち込んだものと考えられる。※	
②			市内の交通事故死傷者数(人)(歩行者・自転車関連)	189人	196人	244人	132人				150人	増減はあるものの、全体としては減少傾向にあることから、現在の取組を引き続き継続する。	
③			市内の高齢者交通事故死傷者数(人)	212人	191人	215人	144人				180人	増減はあるものの、全体としては減少傾向にあることから、現在の取組を引き続き継続する。	
④			にぎわいの創出に寄与する交通環境の実現	中心市街地循環バスの利用者数(人)	68,149人	42,708人	48,529人	40,626人				69,000人	コロナ禍の影響により大きく落ち込んだものと考えられる。※
⑤				市民による「まちのにぎわい」満足度	39.0%	28.6%	—	—	—	—	—	現状より増加	次期総合計画の策定に合わせて調査予定としており、最終年度に評価予定
⑥	目標Ⅱ まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現	多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備	路線バス利用者数(千人)	7,080千人	5,087千人	5,863千人	6,014千人				7,500千人	コロナ禍の影響により大きく落ち込んだものと考えられる。※	
⑦			マイタウン・バス利用者数(千人)	166千人	149千人	146千人	142千人						
⑧		利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組みの推進	市民による「バス、電車などの利用しやすさ」満足度	41.5%	46.6%	—	—	—	—	—	50.0%	次期総合計画の策定に合わせて調査予定としており、最終年度に評価予定	
⑨			市内のバス運送収入(百万円)	1,364百万円	1,042百万円	946百万円	1,011百万円				1,420百万円	コロナ禍の影響により大きく落ち込んだものと考えられる。※	
⑩			持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進	公共交通に関する協議会や検討会に参加した機関・団体数	67団体/88団体(76%)	—	—	—				現状より増加	コロナ禍の影響により、対面での協議会等が開催できていないことから、今回の評価では対象外とする。
⑪	目標Ⅲ 拠点間ネットワークを形成する道路網の実現	多核集約型都市の骨格となる3環状放射型道路網の整備	都市計画道路の整備率	77.1%	77.1%	77.2%	77.2%				79.0%	引き続き現在の取組を進める。	
⑫			市民による「道路の整備状況」満足度	68.7%	69.6%	—	—	—	—	—	75.0%	次期総合計画の策定に合わせて調査予定としており、最終年度に評価予定	
⑬		拠点間ネットワークを強化し走行性を高める道路整備	拠点間のピーク時間帯所要時間 ※資料：国土交通省 秋田河川国道事務所	①28.5分 ②23.7分 ③25.1分 ④12.8分	—	—	①33.3分 ②26.5分 ③31.4分 ④16.3分				現状より短縮	若干悪化となったが、データより大型車両割合の増加による平均速度の低下が原因とみられ、渋滞が発生している状況ではないことから、現在の取組を継続する。 ①秋田駅～北部SC、②秋田駅～西部SC ③秋田駅～南部SC、④秋田駅～東部SC	
⑭		安全で円滑な交通の実現に向けた取組	市内の交通事故死傷者数(人)(自動車関連)	606人	514人	602人	428人				650人	増減はあるものの、全体としては減少傾向にあることから、現在の取組を引き続き継続する。	
⑮			市内の主要渋滞箇所数	35箇所	33箇所	33箇所	33箇所				現状より減少	引き続き現在の取組を進める。	
※	新型コロナウイルスの影響により、策定時の現況値を大きく下回っている状況であるが、目標値を変更する根拠にも乏しい状況であるため、目標値の変更は行わないこととする。 第3次秋田市総合交通戦略および第3次秋田市公共交通政策ビジョンに位置づけた取組をこれまでどおり継続していくことで、誰もが自由に最適な移動手段を選択できる交通体系の実現を目指していくこととする。												